



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

初任者研修 課題等研修Ⅴ【小学校】

平成30年11月16日（金）実施

公開授業及び講演「複式学級における授業づくりについて」

講師：高知大学教育学部附属小学校 松山 起也 教諭



複式の授業づくりの
ポイント

複式学級は、子どもが自分で考え、学習する素晴らしい環境です

複式の授業をつくるうえで最も大切にしたいこと

授業は「~~教師が教えるもの~~」→「子どもが自分たちで学んでいくもの」
教師は子どもの学びをサポートする

- ★ 基本的に、活動は子どもが自分たちで進めていけるような授業構成にする
- ★ 教師は、子どもの状態をしっかりと見取り、必要なところ（課題把握と学びを深める場面）で入るようにする
- ★ 教えるべきところは、しっかり教える

複式学級における「わたり」のポイント



「わたり」とは...

教師が当該学年の指導を行うために、学年間を移動すること

直接指導から間接指導への「わたり」

間接指導につなげる直接指導

《一人一人に活動をさせる準備》

- * 発展的な問題、補充的な問題 * ヒントカード
- * コンピュータ等の機器 * 図鑑等の関係図書
- * 教材、教具 * 小黒板、発表ボード

《一人一人に応じた支援》

- * 終わったらどうするか * 困ったらどうするか
- * 教室以外でも活動してよい * 何にまとめるか
- * 一人で考えるのか、共同で考えるのか

- * 課題に対して自力で解決できる力や手立てがあるとき
- * 解決の見通しをもっているとき
 - ・ 何を（内容） ・ 何のため（目的） ・ どのように（方法）
 - ・ どのくらい（程度） ・ いつまで（期限）
- * つまずいたときの手立てをもっているとき
 - ・ ヒントカードが準備されている
 - ・ 学習を振り返られるノートや掲示物等が整理されている
 - ・ ガイドや友達に相談できる体制になっている
 - ・ その他につまずいたときの約束が事前に指導されている

直接指導

間接指導

● 教師が子どもに対して、直接学習を指導する時間

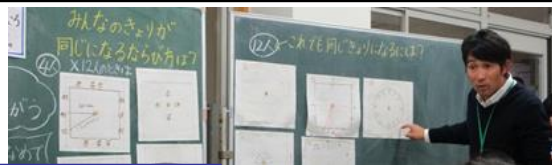
- * 課題をつかむ場
- * 子どもの考えをゆさぶる場
- * 基本事項の指導を徹底する場
- * 子どもの学びを把握する場

● 子どもが教師の直接的な指導によらず、学習を行う時間

● 練習の場でもあり、一人一人が自ら学び、考える力を育む時間

- * 課題を自力解決する場
- * 子ども同士の考えを吟味しあう場
- * 学んだことをまとめ、練習する場

- * 自力解決した内容を修正するとき
- * 自力解決した内容を焦点化するとき
- * 自力解決した内容以外の考えに出合わせるとき
- * 自力解決した内容を深化・発展させるとき
- * 自力解決の行き詰まりやつまずきへの支援を行うとき



間接指導から直接指導への「わたり」



算数の授業づくりのポイント

- ① 問題提示の仕方を工夫することで「見たい！」「知りたい！」を引き出す
- ② 子どもの見方や考え方にズレを生じさせることで「考えたい！」「はっきりさせたい！」「聞きたい！」を引き出す
- ③ 教師がとぼけたり、ゆさぶりをかけたりすることで「言いたい！」を引き出す
- ④ 一人の子どもに全てを説明させない
- ⑤ 「安心して発言できる」「発言することがあたり前」という雰囲気をつくる



【受講者の感想】

今まで複式学級は、二つの学年の授業を同時に行うことから、とても大変なイメージや疑問があったが、授業や講義を通して、考え方が大きく変わった。これからは、子どもたちの様子をよく見て、直接関わる場面と子どもたち自身で学んでいく場面を見極め、子どもたち主体で学び合えるような授業をつくっていききたい。

目的

キャリア教育についての研修を通して、中学校進路指導の在り方を理解するとともに、指導力の向上を図る。

研修Ⅰ【授業参観】 「現代文」「世界史」「生物基礎」など、初任者の専門教科を中心に高知商業高等学校の授業を参観しました。



【受講者の感想】

- 授業を参観させていただき、生徒の行動の切り替えの早さに驚いた。最後に行われていた本時の内容をペアで1分間ずつ言い合う活動は、試してみたいと思った。
- 世界史の授業を参観し、「読解力」に重点を置いた授業だった。中学時代に主な知識や思考力、読解のための視点を身に付けさせていくことが大切であるということを実感した。

研修Ⅱ【講 義】 「中学校における進路指導の在り方について」

講師：高知商業高等学校 岡崎 伸二 校長

～中学生に伝えてほしいこと～

これからの企業・社会が
求める人材（能力・力）

- 「コミュニケーション能力」
- 「課題発見・解決力」
(経済同友会)



中学校2年生には…

高校入試の内容

- (1) 学力検査 〈合計250点〉
- (2) 各教科の学習の記録 〈合計260点〉
- (3) 学校生活全般に係る記録
- (4) 面接・志願理由書

- 高校は自分が「希望」して行かせてもらう学校
- 成功も大事だが「失敗」のほうがよい！
「失敗」から学ぶことは多い。
- 迷ったらやれ！やってみなくちゃ分からない！

中学校3年生には…

高校は自分を変え、チャレンジするチャンス

- (1) 習慣を変えてチャレンジするチャンス
- (2) 成績を変えてチャレンジするチャンス
- (3) 行動を変えてチャレンジするチャンス

「今の自分は永遠に続く自分ではない。
人間は常に成長し変わるものである」

現実の厳しさ

- (1) 簡単に卒業できない
- (2) 簡単に進学できない
- (3) 簡単に就職できない



高校で伸びる生徒⇒今やるべき大切なこと

- (1) 困難を克服できる生徒
⇒ 自分で高校を選んで入学する
- (2) 家庭学習ができる生徒
⇒ 与えられたことしかできない生徒は伸びない
- (3) チャレンジできる生徒
⇒ 成功だけでなく失敗から学ぶ

「コミュニケーション能力」は「自分を変える力」であり、「課題発見・解決力」はチャレンジして失敗することで身に付く。

「コミュニケーション力」「課題発見・解決力」「創造力」を備えた教師になろう。



Society5.0に対応できる子どもを育成するために、自分たちが経験したことのない教育を創造し、提供しなければいけない。

※ Society5.0 とは、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな経済社会のことを言う。

「指導言」を磨こう！

*「指導言」…子どもの行動が変容する教師の言葉

- ・ 子どもに指示や説明をするときに、抽象的になっていないか。
- ・ 指示をしたとき、自分が思ったように子どもが活動しないことがないか。
- ・ そんなときは、自分が適切な「指導言」を使えたかどうかを振り返ろう。
- ・ 具体的な指示や説明ができるように「指導言」を磨こう。



×「一生懸命、遊んでおいで」⇔ 曖昧な指示

○「汗をかくまで、遊んでおいで」⇔ 具体的な指示

